

「維新流」市政

子育て世代に冷たく、「待機見解消」やる気なし宣言

場合があるので、本当は利用者の状況をトータルに把握した経験ある職員が必要なのですが…。問題なのは、医療・リハビリ・入浴サービスのできる障がい者施設もスタッフも不足していることです。

丹羽野 吹田市はこれまでも事業を民間に委託する場合、そこで働いていた非常勤職員を雇い止めにせず、他の部署に配置転換することで雇用者責任を守ってきました。藤井さんたちのケースを許してしまうと、今後も「ルールなき解雇」がまかり通ってしまいます。

藤井 吹田市にはすでに非常勤職員が609人、臨時雇用員が1436人もいて全体の42%を

占めています。そしてほとんど全ての人が、1年ではなく、継続的に雇用されてきたのです。私たちの「雇い止め」を許してしまうと、その他の非正規雇用の方々も安心して働き続けることができなくなってしまう。

丹羽野 昨年9月末でいきなり失業者になってしまったわけですね。現在の生活は？

藤井 私が民間企業に勤める労働者なら、今回の雇い止めは絶対に認められるはずのない不合理なものです。でも、吹田市は、私が非常勤の公務員だからという理由だけで、私の生活や仕事に対する誇りも無視して雇い止めたのです。20年以上も継続して働いてきたのに、民間で

も認められない形で、簡単にクビにできるって、どう考えてもおかしいと思います。

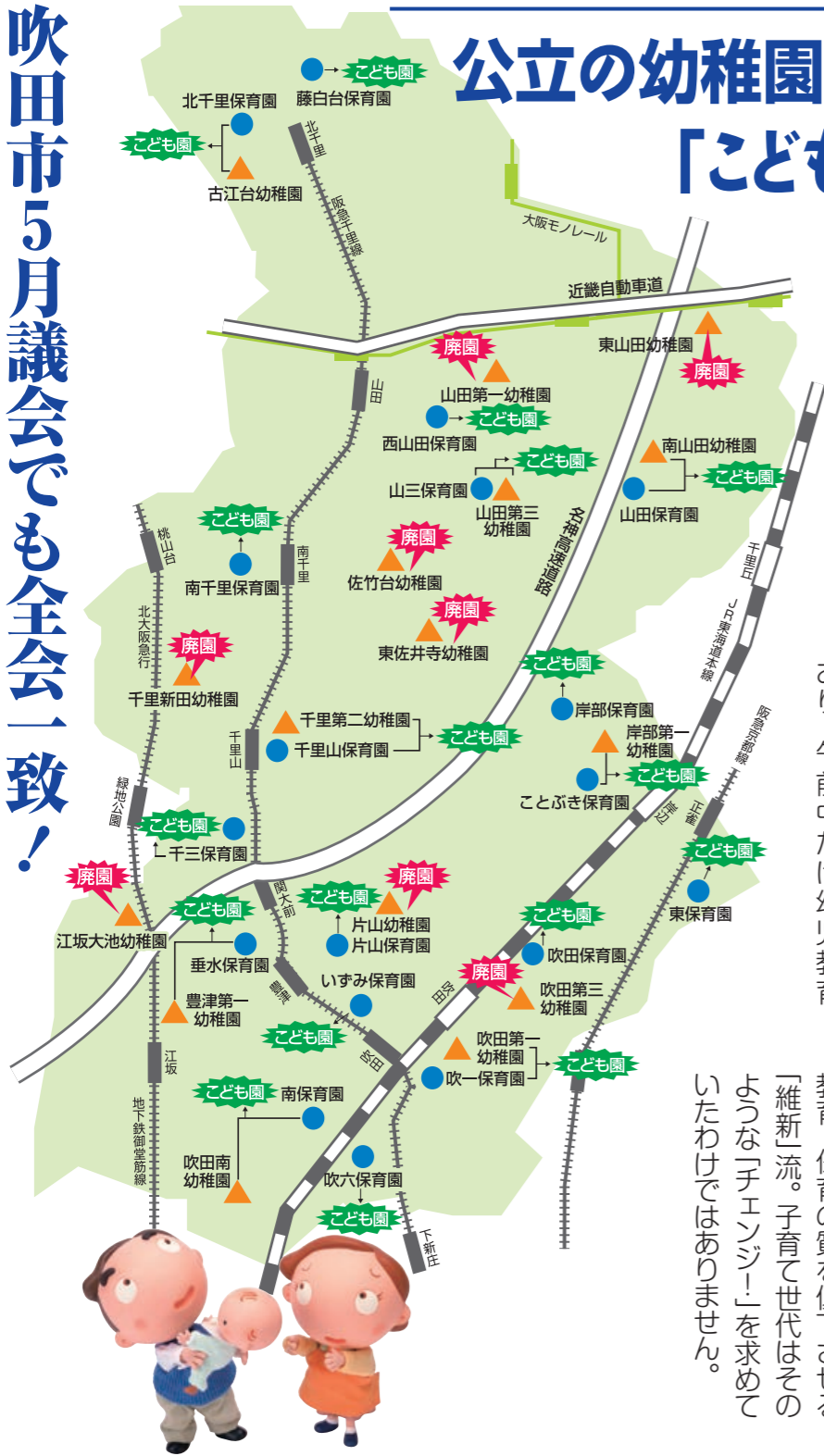
「官製ワーキングプア」の方々の権利を守るためにも

丹羽野 世間ではようやく「官製ワーキングプア」という言葉が認知されてきましたが、民間でも官公庁でも非正規雇用が増えています。吹田市でも学童保育、児童館、図書館など多くの職場で、非正規雇用労働者が低賃金で労働条件も不十分な中、市民サービスをギリギリのところまで守っています。こんな理不尽な解雇を許すわけにはいきません。今後の裁判予定は？

藤井 5月22日に大阪地裁で原告として陳述を行い、裁判が始まりました。次は7月17日午前10時から開かれます。原告は私と、同じように雇い止めされた福田廣子さん。被告は吹田市になります。多くの市民に、この解雇の不当性を知っていただくために、リーフレット宣伝と署名に取り組んでいます。

丹羽野 民間労働者も公務員も手を取り合って、不当なリストラに対して闘っていくことが必要ですね。この裁判は、全国の「官製ワーキングプア」の方々の権利を守る闘いでもあります。最後まで粘って粘り抜いて、勝利しましょうね。今日はどうもありがとうございました。

公立の幼稚園・保育園34園を「こども園」18園にする



吹田市で、公立幼稚園と公立保育園を「こども園」という新しい施設に変えて、施設数を減らすという計画が現在進行中です。今年の2月に発表された「就学前の子どもの教育・保育に関する将来ビジョン」(素案)の中の、「幼保一体化施設の配置計画(案)」では、今の34ある公立幼稚園と保育園を18の「こども園」に移行させようとしています。

「待機見解消」が切実な社会問題となっている中で、「子育てするなら吹田」と全国で高く評価されてきた吹

田市でなぜ、時代に逆行するような施設を減らす施策が提案されるのでしょうか。これでは待機見解消には手をつけないと宣言しているようなものです。すでに5月市議会には計画案について「慎重に進めることを求める請願」が全ての公立幼稚園・PTA会長の賛同署名とともに出され全会一致で可決されています。

計画では、①近接する幼稚園・保育園を「こども園」として一体化、②近接する幼稚園がない保育園は、「こども園」に、③近隣に保育園がない幼稚園は廃園に、とされており、午前中だけ幼児教育

を行つ幼稚園と親の就労を保障するために長時間の保育を行う保育園とを一緒にするという乱暴なものです。「こども園」で、保育時間がバラバラの子どもを無理やり一緒にしても、子どもの生活に合わせたきめ細かなカリキュラムは望めません。

市内に点在する34の幼稚園・保育園は、通園家庭だけではなく、地域の親子に向けて、園庭開放や親子教室など子育て支援の大事な役割を果たしてきた施設ばかりです。

今ある子育て施設を活用して待機見解消に取り組むのではなく、合併して数を減らし、教育・保育の質を低下させる「維新」流。子育て世代はそのような「チェンジ」を求めていたわけではありません。

吹田市5月議会でも全会一致！
公立幼稚園全PTA会長からの「慎重に進めるよう」を求める請願

フォーカス focus

井上吹田市長の「市長メッセージ」任期の折り返しを迎えて、(吹田市ホーム

ページ「よつこ市長室」に掲載を読んでいて気づいたことがある。「維新」の「い」の字も出てこない◆2年前の市長選以来、太陽光パネル疑惑で「維新の会」を除名されてもお呼び続けた「3つの維新」(「行政の維新」、「教育の維新」、「地域経済の維新」)である。事実、吹田市も「3つの維新」を軸に政策を展開してきた。橋下・「維新の会」への国内外からの批判を前に、あわてて「維新」の文字を消しにかかったのだから◆看板はベールで覆った。中身はどうか。2年間の最大の実績は、人件費の削減と事業の見直し、つまりは、住民サービスの切り捨てだ、と胸を張る。弱者の切り捨てで、子どもの医療費助成の財源をうんだというのも、何とも空しい話だ◆これからの2年間は、吹田全体に「人・物・金・情報」を呼び込み、まちを元気にする、という。橋下・維新の会の政策どおりだが、大阪経済は悪化の一途をたどっている。大企業を優遇する一方、住民の所得や雇用は改善せず、さらに福祉・教育を削ってきたからだ◆自治体の主人公は住民であり、そのための行政運営である。行き詰った橋下大阪市長に、主客転倒した「隠れ維新」市政の明日をみた。